「令和6年度官民連携 EWS イニシアティブ成果 防災 DX サービス開発実証業務」に係わる発表

2025年01月28日

株式会社 日立製作所

目次

1. 本案件の経緯
2. ベトナム社会主義共和国でのニーズ
3. 防災DXサービスの有効性検討
4. 防災DXサービスの技術検討
5. サービスの導入プロセス
6. まとめ

水害を含む気候適応への支援が世界的に推進

2018：日本で「気候変動適応法」施行

2022：COP27で「シャルム・エル・シェイク実行計画」発表（Loss and Damageが議題に）

2022：「EWS 協議会」発足、環境省と浸水シミュレーター(FloodS)を構築

2023：浸水シミュレーター(FloodS)の機能拡張

2024：浸水シミュレーター(FloodS)を活用したビジネス検討

今年度もASEAN諸国で風水害が多発

早期警戒による被害軽減が求められる

FloodSをコア技術として、ASEAN諸国の水害被害早期対応という
共通課題を解決する「防災DXサービス」を開発実証する

災害対応検討のために義務付けられている報告(24時間以内)が困難

表. 報告が義務付けられている項目と時期

報告内容	24時間以内/ 日時報告	最終報告
災害状況	○	○
災害対応の 指揮と展開	○	○
災害対応結果		○
損害の統計と評価	○(暫定版)	○
災害復旧活動	○	○
提案と提言	○	
残課題と提言		○

課題

- ・迅速に被災地の状況を把握
- ・迅速に上位組織に報告
- ・災害対応と報告書作成を並行

防災DXサービスに求められる要素

- ・現地調査の負担低減
- ・報告書作成の効率化
- ・発災から報告までの所要時間短縮

3.1. 防災DXサービスの有効性検討 防災対応の変化

サービスを活用し迅速な災害報告と人命救助への注力が可能

3.2. 防災DXサービスの有効性検討 YAGI台風

パイロットサイトでの有効性確認の機会を模索中

机上検討中の水害

- ・範囲
ハノイ市 チュオンミー県(Huyện Chương Mỹ)
- ・災害
2024年9月YAGI台風
- ・被害推計
報告書の「損害の統計と評価」の指標の一部を推計
>道路、水田、果樹園、その他作物、
学校、医療機関、家屋

4. 防災DXサービスの技術検討 EWS協議会での連携

EWS協議会企業と連携して風水害発生前・直後に迅速に被害規模を確認し
必要に応じて中央政府・自治体で連携した適切な対応が可能

5. サービスの導入プロセス

防災DXサービスを段階的に導入することが現実的

・拡販フェーズを3段階に分割

課題

- ・ 気象データや地形データの精度
- ・ 導入に向けた実証や資金の獲得
- ・ 予算獲得の難しさ
- ・ 有力な現地代理店との連携
- ・ 各国の商習慣に合わせてサブスクリプション・買い切りの双方への対応

6. まとめ

- ・ベトナム社会主義共和国の防災活動の現状を調査し、水害の早期警戒を支援するサービスのニーズが高いことを確認した。
- ・高付加価値の防災DXサービスを提供するにはさまざまなサービスとの連携が望ましい
- ・有効性を確認するための実証・外部へのアピール・適宜現地組織との連携が重要であり、効率的に進めていくための体制等の検討が求められる。

・EWS協議会メンバーで協業することで海外ビジネスの発展が促進する

実証候補	ベトナム 社会主義共和国	: ハノイ市、フエ市
	タイ王国	: プーケット県、チェンマイ県、バンコク都